



ふるさと 福井の自然

— 第9号 —
福井の高山植物



はじめに

福井県には、海、山、川、湖沼、湿原などの多様な自然環境があります。それぞれの環境には、長い年月をかけてできた独自の生態系が成立し、その結果、多くの種類の動植物が福井の大地に生きています。本誌は、これらの自然をシリーズで紹介することにより、自然保護への関心を高めていただくことを目的としています。

今回は、県内に自生する代表的な高山植物を紹介します。高山植物は人里から遠く離れた高い山で、風雪に耐えて生きています。それだけに低地の植物にはない魅力を持ち、多くの人が夏山へと駆り立てています。登山をされない方には、あまりなじみのない存在かもしれません、本誌をおして、その魅力の一端にふれていただければと思います。

最後に、編集にあたり貴重な写真の提供をはじめ、懇切なご指導をいただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成7年3月

福井県自然保護センター
所長 斎藤栄三

目 次

福井県の高い山	1
高い山の植生	2
花のアルバム	4～19

インフォメーション

(1) 高山植物とは	5
(2) 福井県を分布限界とする高山植物	7
(3) 高山植物の盛衰	9
(4) 高山植物の特徴	11

フィールドガイド

(1) 赤兎山	13
(2) 冠山	15
(3) 能郷白山	17
(4) 取立山	19
あとがき	20



刈込池から望む三ノ峰

福井県の高い山

福井県で最も高い山は、石川、岐阜と接する県境にそびえる三ノ峰です。標高2,128mの頂上部は、残念ながら福井県ではありませんが、2,000mを越す山の中では、日本で最も西に位置しています。

県内で1,000mを越す山は、右の図のように分布していますが、そのほとんどが嶺北地方の県境近くに集中しています。

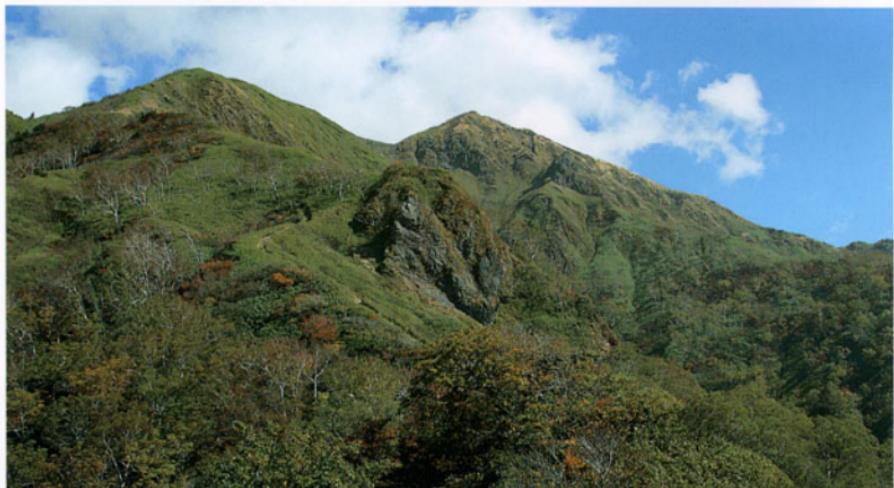
これらの山の頂上付近は、冬のきびしい季節風の影響で、背の高い樹木が育たず、多くは低木林やチシマザサの草原になっています。今回紹介するのは、主にこのようなところを生育地としている植物です。



高い山の植生

～三ノ峰～

地表をおおう植物の集まりを植生と呼びます。高い山へ登ると、標高が上がるにつれて植生が変化し、最後には高山植物たちの世界にたどり着きます。ここでは、三ノ峰の登山口から頂上にかけて分布する代表的な植生をとり上げ、その様子を見てみましょう。



剣ヶ岩手前から見た三ノ峰。山頂に向かって植生が変化する様子がわかる。

ブナ林

打波川沿いの登山口から歩き始めると、しばらくは杉の植林地が続き、途中からブナの林に変わります。ここからは、人間の影響をあまり受けていない自然のままの植生です。ブナ林は低山帯を代表する森林で、県内では標高およそ800mから1,400mにかけて発達しています。



刈込池周辺のブナ林（標高1,100m付近）

ダケカンバ林

標高1,500mを越えると、亜高山帯の植生であるダケカンバの林が現れます。太平洋側では、針葉樹林が発達しますが、針葉樹は積雪に弱いため、日本海側ではあまり発達しません。三ノ峰では、比較的雪の少ない斜面にオオシラビソという針葉樹が見られる程度です。



剣ヶ岩近くのダケカンバ林（標高1,700m付近）

こうけい 高茎草原

標高1,800mぐらいから山頂にかけては、ダケカンバなどの樹高がしだいに低くなり、しかも分布がまばらになります。森林の様相が見られなくなるこの辺りからが、高山植物たちの世界です。チシマザサや低木の群落が途切れたところに、様々な高山植物が集まって、高茎草原と呼ばれる「お花畠」をつくっています。



カライトソウやクガイソウが咲く山頂付近の高茎草原。
(標高2,100m付近)

せつでん 雪田草原

避難小屋がある尾根から岐阜県側へ少し下ると、夏でも雪が残っているところがあります。冬の間、雪の吹きだまりになるためで、このような場所は雪田と呼ばれています。雪田のまわりは、雪解け水によって絶えず潤され、ハクサンコザクラやクロユリなどが群生する特有の「お花畠」が見られます。



避難小屋近くの雪田。(標高2,000m付近)

チシマザサ自然草原

冬の強い季節風にさらされる山頂部や尾根沿いには、チシマザサの群落が広がっています。その中に低木やニッコウキスゲなども混生し、山頂部では、高山帯を代表する植物であるハイマツも姿を見せます。



チシマザサにおおわれた山頂付近の景観。(標高2,100m付近)



イワオトギリ（オトギリソウ科）*Hypericum kamtschaticum* var. *hondoense*

草地や砂礫地に生える。黄色い花には、長い雄しべが束になっていてよく目立つ。

分布 本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、赤兎山、冠山 他）

撮影 94.7.29 三ノ峰



クガイソウ（ゴマノハグサ科）*Veronicastrum japonicum*

高茎草原によく見られる。多数の花が集まって15cmほどもある長い穂をつくる。

分布 本州中部地方以北の山地帯～亜高山帯

（三ノ峰、経ヶ岳、夜叉ヶ池 他）

撮影 94.7.31 二ノ峰



ハクサンフウロ（フウロソウ科）*Geranium yesoense* var. *nipponicum*

湿った草原などに群落をつくる。高山のお花畠の常連で、花の色の濃淡はさまざま。

分布 本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰）

撮影 94.7.29 三ノ峰



シモツケソウ（バラ科）*Filipendula multiflora*

湿り気の多い草地に生える。小さな花は、離しへや雄しへも紅色でとても愛らしい。

分布 本州中部地方以西、四国、九州の山地帯～亜高山帯（三ノ峰、能郷白山、冠山他）

撮影 94.7.29 三ノ峰



ミヤマダイモンジソウ（ユキノシタ科）*S. fortunei var. nivicola f. alpina*

岩壁や斜面の草地に生える。大小5枚の線形の花弁が「大」の字をついている。

分布 北海道、本州中部以北の高山帯（三ノ峰）

撮影 94.7.29 三ノ峰



トモエシオガマ（ゴマノハグサ科）*Pedicularis resupinata var. caespitosa*

草地に生え、花は上から見ると巴状に見える。

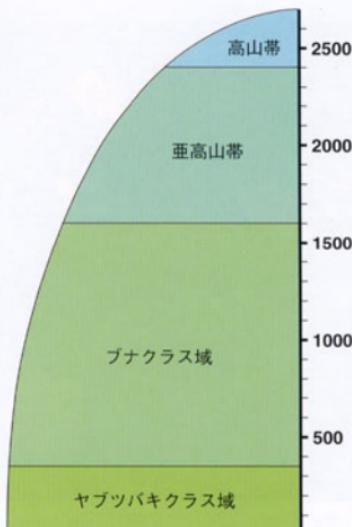
分布 本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯下部（三ノ峰、経ヶ岳、御子山）

撮影 94.7.29 三ノ峰

インフォメーション（1）「高山植物」とは

「高山植物」という言葉は、高山帯で生育している植物を指しています。しかし、植物は種類によって生育範囲に差があり、高山帯にだけ見られる植物もあれば、山地帯から高山帯にまで広く分布する植物もあります。そこで、一般には、あまり厳密に定義せず、これらをまとめて高山植物と呼んでいます。本誌でも、このような広い意味で「高山植物」をつかっています。

三ノ峰を含む白山地域では、標高約1,600mから2,400mまでが亜高山帯、2,400m以上が高山帯と考えられています。一方、県内では三ノ峰が最高峰で、その標高が2,128mですから、高い山といっても亜高山帯までということになります。



白山の植生区分
里見（1977）を改変



クロユリ（ユリ科）*Fritillaria camschatcensis*

歌や伝説でも知られる有名な高山植物。雪田のまわりに群生する。

分布 北海道・本州中部地方の亜高山帯～高山帯（三ノ峰）

撮影 94.8.3 白山



イワイチョウ（リンドウ科）

Gaura crista-galli ssp. *japonica*

丸い葉がイチョウの葉を連想させる。やや湿ったところに群生する。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯

（三ノ峰、赤堀山、大長山）

撮影 94.7.5 赤堀山



シナノキンバイ（キンポウゲ科）*Trollius riederianus* var. *japonicus*

高茎草原の代表的なメンバー。鮮やかな黄色の花が群生する様子は、「お花畠」と呼ぶにふさわしい。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰）

撮影 94.7.29 三ノ峰



ヨツバシオガマ（ゴマノハグサ科）
Pedicularis chamissonis var. *japonica*

高茎草原や風当たりのやや強い草地に生える。名前のとおり切れ込みのある4枚の葉が輪生する。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰）
撮影 94.8.3 白山



ハクサンコザクラ（サクラソウ科）
Primula cuneifolia var. *hakusanensis*

雪田の周辺や湿った草地にだけ見られる。愛らしいピンクの花は、いかにも高山植物らしい。

分布 本州の飯豊山地から白山までの日本海側の高山帯～亜高山帯（三ノ峰）
撮影 94.7.29 三ノ峰



アオノツガザクラ *Phyllodoce aleutica*

雪田のまわりに生える常緑の小低木。スズランのような形をした花が下向きに咲く。

分布 北海道、本州中部地方以北の高山帯（三ノ峰）
撮影 94.8.3 白山

インフォメーション（2） 福井県を分布の限界とする高山植物

石川県の白山は、高山帯を持つ山としては、日本で最も西にあります。そのため、100種を超える高山植物が白山山系を分布の西限としています。その例として日本の代表的な高山植物であるハイマツをはじめクロユリ、ハクサンコザクラ、アオノツガザクラなどがあげられます。これらの植物の中には、三ノ峰を中心として加越山地や越美山地にまで分布を広げているものが多いため、県内の山を西限もしくは南西限とする高山植物も70種以上確認されています。

福井県を分布の限界とする高山植物の例

科 名	和 名
マツ科	ハイマツ
キンポウゲ科	ハクサンイチゲ
。	ミヤマキンポウゲ
。	シナノキンバイ
ユキノシタ科	アラシギサ
ガンコウラン科	ガンコウラン
セリ科	ハクサンボウフウ
。	シラネニンジン
ツツジ科	アオノツガザクラ
サクラソウ科	ハクサンコザクラ
リンドウ科	イワイチョウ
ゴマノハグサ科	ヨツバシオガマ
キキョウ科	ハクサンシャジン
ラン科	ハクサンチドリ
ユリ科	クロユリ



カライトソウ (バラ科) *Sanguisorba hakusanensis*

砂礫地、岩壁、草地などに生える。花穂全体がピンクの編みひものように見える。

分布 北アルプス北部から滋賀県三国山までの亜高山帯～高山帯
(三ノ峰、冠山、夜叉ヶ池 他)

撮影 94.7.29 三ノ峰



トガクシコゴメグサ (ゴマノハグサ科)

Euphrasia insignis

草地に生える小さな1年草。小さな白花をかためてつけるので「小米」の名がある。

分布 白山、北アルプス北部、戸隠

(三ノ峰、経ヶ岳、冠山 他)

撮影 94.7.29 三ノ峰



ミヤマシャジン (キキョウ科)

Adenophora nikensis var.
stenophylla

岩礫地や岩の間に生える。よく似た種類の高山植物にヒメシャジン、ハクサンシャジンなどがある。

分布 本州中部地方以北の亜高山

帯～高山帯 (三ノ峰)

撮影 94.7.29 三ノ峰



ミヤマトウキ（セリ科）*Angelica acutiloba* var. *iwatensis*
岩礫地や溪流沿いの岩上に生える。全体に独特の香氣がある。

分布 北海道石狩低地帯以西、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯
(三ノ峰、霧ヶ岳、冠山他)

撮影 94.7.29 三ノ峰



キバナノコマノツメ（スミレ科）*Viola biflora*
湿った草地や溪流沿いに生える。葉の質も薄く、全体に弱々しい感じがする。

分布 北海道、本州中部地方以北、四国、屋久島の亜高山帯～高山帯 (三ノ峰)
撮影 94.7.29 三ノ峰



ヤマハハコ（キク科）*Anaphalis margaritacea*
日当たりのよい乾いた草地に生える。学名の *margaritacea* は「真珠状」の意味で、花の様子をたとえている。

分布 北海道、中部地方以北の山地帯～高山帯 (三ノ峰、赤兎山)
撮影 94.8.3 白山



センジュガンビ（ナデシコ科）*Lychnis gracilissima*
林縁や林内に生える。学名にある *gracilissima* は「非常に繊細な」という意味。

分布 本州中部地方以北の山地帯～亜高山帯 (三ノ峰)

撮影 94.8.3 白山

インフォメーション（3） 高山植物の盛衰

高山植物が生育している高山帯や亜高山帯は、日本全体からみれば海に浮かぶ島のように点々と分布し、その面積もごくわずかです。しかし、今でこそ細々と生活している高山植物ですが、地球全体が寒冷であった氷河時代には、現在よりずっと低いところまで分布していたと考えられています。

北半球では、今から1万年前ぐらいまでの間に6回の氷期（寒冷な時期）があったとされています。氷期には、雪や氷が解けないために、川から海に流れ込む水量が減り、海面が低くなつて海底が陸化しました。その結果、日本は朝鮮半島やサハリンと陸続きになり、シベリアをはじめアジア大陸から、多くの動植物が日本列島にやってきました。日本の高山植物の中には、このようにして北方から分布を広げてきた種類が多いといわれています。

その後、気候が暖かくなるにつれ、高山植物は温暖な気候に適した植物によって生活場所を追われ、あるものは北の地方に、あるものは高山へと寒冷な気候を求めて移動し、現在に至っているのです。このような意味で高山帯や亜高山帯は、氷河時代のタイムカプセルといえそうです。



イワカガミ（イワウメ科）*Schizocodon soldanelloides*
草地、岩礫地に生える常緑の多年草。ピンクの花はラッバのような形をしている。
分布 北海道～九州の山地帯～亜高山帯（三ノ峰、赤兎山、冠山 他）
撮影 94.6.4 冠山



ハクサンオミナエシ（オミナエシ科）*Patrinia triloba*
日当たりのいい岩場や岩礫地に生える。別名をコキンレイカという。
分布 本州中部地方以北の日本海側の山地帯～亜高山帯（三ノ峰、経ヶ岳、冠山）
撮影 94.7.29 三ノ峰



タカネナデシコ（ナデシコ科）*Dianthus superbus* var. *speciosus*
岩礫地などにはえる。秋の七草でおなじみのカワラナデシコの高山型。
分布 北海道、本州中部地方以北の高山帯（三ノ峰、鳥岳）
撮影 94.7.29 三ノ峰



タカネアオヤギソウ（ユリ科）

Veratrum maackii var. *longibracteatum*

草地に生える。青柳草の「青」は花の色、「柳」は葉の様子をいっている。

分布 本州中部地方以北の高山帯（三ノ峰、冠山、夜叉ヶ池、伊吹）

撮影 94.7.29 三ノ峰



エゾシオガマ（ゴマノハグサ科） *Pedicularis yezoensis*

草地に生える多年草。「シオガマ」と名がつく種類は鮮やかな花をつけるものが多いが、この花はどうみても地味。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰）

撮影 94.7.29 三ノ峰



イワオウギ（マメ科）

Hedysarum vicioides

尾根筋や岩壁などに生える。淡黄色の花穂が何本も立ち、実を見ればマメの仲間とすぐにわかる。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、北岳）

撮影 94.7.29 三ノ峰

インフォメーション（4）高山植物の特徴



冬の季節風は、高い山で生活する生物たちに大きな試練をもたらします。低温、乾燥、強風に加え、1年の半分以上が雪に覆われることも少なくありません。高山植物たちは、このような過酷な環境に耐えて生きるために、一般に背丈が低く、根が発達し、体の割に大きく目立つ花をつけるなど共通した特徴を持っています。また、1年のうち成長できる期間が短いため、成長速度はきわめて遅く、たとえばハイマツでは、芽生えから10年経過しても幹の直径は5ミリぐらいにしかなりません。



大きく美しい花で昆虫を引き寄せる。（タカネマツムシソウ）



ハイマツ（三ノ峰頂上付近）



ゴセンタチバナ（ミズキ科）*Hypericum kamtschaticum* var. *hondoense*

林床や林縁に群落をつくる。葉が4枚の株と6枚の株があるが、花をつけるのは6枚の株だけ。

分布 北海道、本州中部地方以北、四国の中高山帯～高山帯（三ノ峰、赤兎山、取立山 他）

撮影 94.7.5 赤兎山

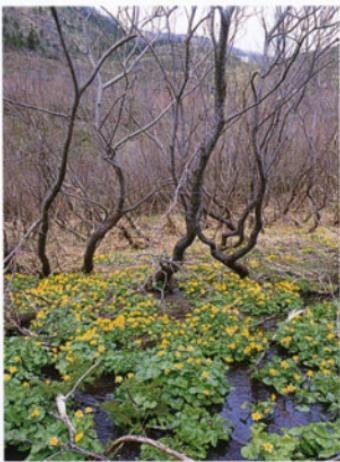


ツバメオモト（ユリ科）*Clintonia udensis*

林内に生え、葉は全て根生する。葉も花も清楚でやさしい感じがする。

分布 北海道、本州奈良県以北の山地帯上部～中高山帯（三ノ峰、赤兎山、経ヶ岳 他）

撮影 93.6 赤兎山



リュウキンカ（キンポウゲ科）*Caltha palustris*

湿地や浅い水中に生える。立金花の名は、黄金色の花が立ち上がって咲くところからついた。

分布 本州と九州の山地帯（三ノ峰、赤兎山、夜叉ヶ池 他）

撮影 89.5 赤兎山



オニシモツケ（バラ科）

Filipendula kamtschatica

溪流沿いなどに生える。姿はシモツケソウに似るが、花は白く、全体に大きい。

分布 北海道、本州中部地方以北の山地帯～高山帯（三ノ峰、赤兎山、取立山、他）

撮影 94.7.26 赤兎山



マイヅルソウ（ユリ科）

Maianthemum dilatatum

舞鶴草の名は、ハート形の葉を鶴の羽に見立てたもの。ブナ林の下などに大きな群落をつくる。

分布 北海道～九州の山地帯上部～高山帯（三ノ峰、取立山、冠山、他）

撮影 94.7.5 赤兎山



ハリヅキ（ウコギ科）

Oplepanax japonicus

林下にはえる落葉の低木。幹や葉はとげだらけで、見るからに痛そう。

分布 北海道、本州紀伊山地以北、四国の中高山帯～高山帯下部（三ノ峰、赤兎山、小原峰）

撮影 94.7.26 赤兎山

フィールドガイド（1）－赤兎山－

あかうさぎやま

赤兎山は、石川県との県境にそびえる標高1,629mの山で、頂上付近は白山国立公園の一部になっています。勝山市小原の登山口から登ると、1時間半ほどで頂上に着きます。途中、ブナ林の中では、春はリュウキンカ、夏はツバメオモトやギンリヨウソウなどが目につきます。

頂上から10分ほど尾根沿いに下ると、避難小屋のある赤兎平に着きます。ここでは、早春にはヒメイチゲ、夏にはササユリ、ニッコウキスゲ、秋にはエゾオヤマリンドウなどが咲きます。中でも初夏のニッコウキスゲが咲くころは、多くの登山客でにぎわいます。

また、赤兎平には、県内では唯一の高層湿原である「赤池」があります。この湿原では、イワイチョウ、モウセンゴケ、ミカヅキグサ、ミヤマホタルイなどが見られます。ただ、登山者の多くが、池の周囲の湿原を踏み荒らしているので気をつけたいものです。



赤兎平にある赤池。尾瀬と同じタイプの高層湿原。



避難小屋近くのニッコウキスゲ群落



タテヤマウツボグサ（シソ科）*Prunella prunelliformis*

やや湿った草地に生える。花は目のさめるような美しい紫色をしている。

分布 本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、荒鳥岳、冠山）

撮影 94.7.29 三ノ峰



タテヤマリンドウ

(リンドウ科)

Gentiana thunbergii

f. minor

湿地に生える小型の
リンドウ。冠山でよ
く見かける。

分布 北海道、本州三重県
以北の山地帯～高山
帯（冠山、部子山、
夜叉ヶ池 他）

撮影 94.6.4 冠山



コバイケイソウ（ユリ科）

Veratrum stamineum

やや湿った草地に生える。白い花房をつけ、
登山者にはおなじみの植物。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ
峰、冠山、夜叉ヶ池 他）

撮影 94.8.3 白山



ミヤマシシウド（セリ科）

Angelica pubescens var. *matsumurae*

高茎草原でよく見られる。高さが1.5mにもなり、花序も大きいのでよく目立つ。

分布 本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、刈込池、冠山）

撮影 94.7.29 三ノ峰



キンコウカ（ユリ科）

Narthecium asiaticum

湿原、湿地、溪流沿いなどに群生することが多い。鮮やかな黄色の花は金光花の名にふさわしい。

分布 北海道、本州近畿地方以北の山地帯～高山帯（赤兎山、冠山、日野山、他）

撮影 94.7.25 冠山



カラマツソウ（キンポウゲ科）

Thalictrum aquilegiifolium var. *intermedium*

草地に生え、高さ0.5～1.2mになる。たくさんのが白い雄しべがカラマツの葉を思わせる。

分布 北海道、本州の山地帯～高山帯（三ノ峰、冠山、夜叉ヶ池、他）

撮影 94.7.25 冠山

フィールドガイド（2） かみむりやま —冠山—



冠山は、岐阜県との県境にある標高1,257mの山です。天に向かって突き出た山頂部は、一度見たら忘れない特徴的な姿をしています。

県境の冠山峠から登ると約1時間20分ほどで冠平につきます。ここでは、背の低いシマザサの中にコバイケイソウ、ミヤマトウキ、ニッコウキスゲなどが見られます。冠平から頂上への道は、岩場が多く傾斜も急ですが、登山道沿いにはイワカガミ、タテヤマリンドウ、カライトソウ、キンコウカなど、山頂ではホンシャクナゲが見られます。山頂は狭く、岐阜県側が絶壁になっているので注意が必要ですが、ここからの展望は素晴らしい、晴れた日には遠く白山や伊吹山まで見渡せます。



鳥帽子冠のような姿から冠山の名がついている。



山頂からの眺望。遠くに雪をかぶった白山が見える。



ミヤマアキノキリンソウ

ウ (キク科)

Solidago virgaurea var.

leiocarpa

平地で見られるアキノキリンソウの高山型で草地や疊地に生える。

コガネギクともいう。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、能郷白山、夜叉ヶ池）

撮影 94.7.29 三ノ峰



イブキトラノオ (タデ科)

Bistorta major var. japonica

草地に群生する。和名は、滋賀県の伊吹山に多いことによる。

分布 北海道～九州の山地帯～高山帯（三ノ峰、能郷白山、夜叉ヶ池 他）

撮影 94.8.3 白山



キオン (キク科)

Senecio nemorensis

やや日当たりのよい草地に生える。高さ1m近くになる大型の草本で、別名ヒゴオミナエシともいう。

分布 北海道～九州の山地帯～亜高山帯（三ノ峰、能郷白山、郡子山 他）

撮影 83.8.13 三ノ峰

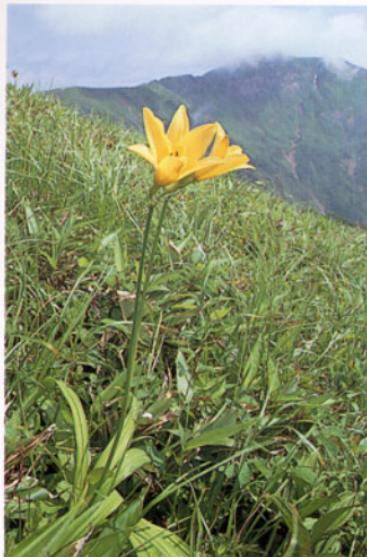


イワハゼ (ツツジ科) *Gaultheria adenothrix*

林縁に生える常緑の小低木。別名をアカモノといい、がく、花柄、それに実まで赤い。

分布 北海道、本州、四国、山地帯～高山帯下部（荒島岳、能郷白山、夜叉ヶ池 他）

撮影 83.6.5 夜叉ヶ池



オオコメツツジ（ツツジ科）*Rhododendron trinervium*

やや湿ったところに生える落葉の低木。高さは1m以上になるが、コメツツジの名のとおり小さな花を咲かせる。

分布 中部地方以北の日本海側の亜高山帯（赤兎山、能郷白山、冠山 他）
撮影 94.7.25 冠山

ニッコウキスゲ（ユリ科）*Hemerocallis dumortieri var. esculenta*

草地や湿地に群生し、県内では赤兎山が有名。花は1日花といって朝開いて、夕方にはしぼんで終わってしまう。

分布 本州中部以北の山地帯～高山帯下部（三ノ峰、赤兎山、冠山 他）
撮影 94.7.31 三ノ峰

フィールドガイド（3） のうごはくさん —能郷白山—

能郷白山は、岐阜県との県境にある標高1,617mの山です。かつては岐阜県側からの登山道しかなく、県内からは沢登りでしか行けませんでした。しかし、昭和63年に温見峠からの登山道ができたため、本県からも登りやすくなりました。途中ロープを張った急な登りもありますが、2時間ほどで頂上に着きます。山頂はなだらかな高原状で、能郷白山権現社を祭った祠があり、白山信仰の靈場であることを感じさせます。ここでは、シモツケソウ、ニッコウキスゲ、イブキトラノオ、コバイケイソウ、マルバダケブキなどの高山植物が群落をつくっていて、これらの「お花畠」と展望のよさが、登山の疲れを一度に吹き飛ばしてくれます。



シモツケソウ群落。



イブキトラノオ群落。



ウスユキソウ（キク科）

Leontopodium japonicum

歌で有名なエーデルワイスと同じ仲間。やや乾燥した草地、磯地、岩の割れ目などに生える。

分布 北海道～九州の山地帯上部（三ノ峰）

撮影 94.7.29 三ノ峰



ミヤマコウゾリナ（キク科）

Hieracium japonicum

磯地から草地にかけて生える。全体に毛が多く、タンボポに似た直径2cm前後の花をつける。

分布 本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰）

撮影 94.7.29 三ノ峰



タカネマツムシソウ（マツムシソウ科）

Scabiosa japonica var. alpina

草地や砂礫地に生える。一つの花に見えるものは、キクの仲間と同じように多くの花が集まつたものである。

分布 本州中部地方以北、四国、亞高山帯～高山帯（三ノ峰、北岳、亞島岳）

撮影 94.7.29 三ノ峰



ミズバオウレン（キンポウゲ科）*Coptis trifolia*
林内、林縁、湿原などに生える常緑の多年草。
花茎が緑色なので、褐色のコシジオウレンと見分けられる。

分布 北海道、本州中部地方以北の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、赤兎山、冠山）

撮影 93.6 赤兎山



コシジオウレン
(キンポウゲ科)
Coptis trifoliolata
林縁や林内に生える常緑の多年草。白い花弁のように見えるものは、がく片。
分布 本州日本海側の亜高山帯～高山帯（三ノ峰、取立山、冠山他）
撮影 94.5.24
取立山



サンカヨウ（メギ科）*Diphylleia grayi*
林縁や林内に生える。清楚な白い花が終わると
ルリ色のかわいい果実をつける。

分布 北海道、本州中部地方以北、大山の山地帯～亜高山帯（赤兎山、取立山、冠山）

撮影 94.6.9 冠山

フィールドガイド（4） — 取立山 —

とりたてやま

山登りに縁の無い方でもミズバショウといえば、この山の名を連想する人が多いのではないでしょうか。国道157号線より「東山いこいの森」へ向かう林道の終点から登ると、1時間半ほどで1,307mの頂上に着きます。「お花畠」は見られませんが、5月中旬のミズバショウのシーズンには、登山道沿いのブナ林でタムシバ、ムラサキヤシオなどの花が目を楽しませてくれます。ミズバショウの群生地は、頂上から30分ほど下ったところにあります。狭い谷筋が湿原になっていて、そこには千数百株におよぶといわれるミズバショウの群落が見られます。毎年、この時期の週末は、花を求める登山客で山全体がにぎわいます。

（注）林道が途中から通行できない場合もありますので、勝山市商工観光課へお問い合わせ下さい。



ミズバショウが群生する取立山の湿原。



ブナ林の中に咲くムラサキヤシオ

あとがき

「高嶺の花」という高山植物を意味する言葉があります。辞書で引いてみると、「ただ見ているばかりで、手にとることのできないもののたとえ」と出ています。しかし、このたとえは、今ではあまり適切でないようです。かつては人を寄せ付けなかった高山も、立派な登山道が整備されて、多くの人間を受け入れるようになりました。その結果、高山植物は、手にとることができないどころか、心ない登山者に踏み荒らされ、生命が脅かされる存在になっています。きびしい自然の中で生育している高山植物も、踏みつけられると簡単に枯死してしまうのです。その上、破壊された植生の回復は、極めて難しいといわれています。

近年、国立公園を中心に種々の保護策が講じられていますが、何よりも必要なのは、登山者一人一人のマナーです。高山のすばらしい自然を次代に残すために、いつまでも「高嶺の花」として彼らを見守りたいものです。

写真協力（敬称略）

杉本 剛士

樹田 靖憲

松田 豊治

松村 俊幸

参考図書

- 1、石川県白山自然保護センター（1991） 白山の自然誌 ⑪白山の高山植物
- 2、石川県白山自然保護センター（1992） 白山の人と自然 植物篇
- 3、石川植物の会 編（1991） 石川の自然 植物、橋本確文堂
- 4、木原浩・小野幹雄（1979） 野外ハンドブック ⑧高山植物、山と渓谷社
- 5、豊国秀夫 編（1988） 日本の高山植物、山と渓谷社
- 6、白山総合学術書編集委員会 編（1992） 白山－自然と文化－、北國新聞社
- 7、福井県（1985） みどりのデータバンク総括報告書
- 8、福井山歩会（1992） 新登ってみねの福井の山
- 9、渡辺定路（1989） 福井県植物誌



ふるさと福井の自然（第9号）

平成7年3月発行

編集・発行 福井県自然保護センター

〒912-01 大野市南六呂師169-11-2

TEL 0779-67-1655・1656

印 刷 朝日印刷株式会社

この冊子は福井県自然保護基金によって作成されました。

ハフサソ フウロ	クロユリ	シナノ キンバイ
三の峰の高麗草原		
タカネマツ ムシソウ	ミズバショウ	イワカガミ

裏表紙 ニッコウキスゲ（三ノ峰）



福井の山と花

